

1. 眼窩間狭小 (hypotelorism) を
認めないものはどれか

- a. 無嗅脳症 (arrhinencephaly)
- b. Binder症候群
- c. Down症候群 (21trisomy)
- d. 三角頭蓋 (trigonocephaly)
- e. 頭蓋顔面裂 (Tessier 分類 No 14 cleft)

2. 鼻骨骨折の記載で正しいものはどれか

- a. 鼻骨骨折単独でも眼球陥凹を生じる
- b. 鼻骨骨折整復後の固定にギプスは用いない
- c. 鼻骨骨折単独では頬部の知覚鈍麻を生じない
- d. 鼻骨骨折整復後の固定にタンポンガーゼは用いない
- e. 鼻骨骨折では新鮮期でも非観血的整復は困難である

3. 上顎骨骨折, 下顎骨骨折の記載で 誤っているものはどれか

- a. 筋突起骨折は下顎骨骨折の1種類である
- b. 上顎骨骨折では頬部の知覚異常は生じない
- c. アーチバーは顎間固定に用いられる材料である
- d. 下顎骨や上顎骨の骨折の治療では顎間固定をしばしば用いる
- e. Le Fort I型骨折はLe Fort II型骨折よりも尾側に骨折線がある

4. 顔面神経各分枝の麻痺とその症状の 組み合わせで誤りはどれか

- | | | | |
|----|------|---|--------|
| a. | 側頭枝 | — | 眉毛の下垂 |
| b. | 頬骨枝 | — | 下眼瞼の外反 |
| c. | 頬骨枝 | — | 鼻唇溝の消失 |
| d. | 頬筋枝 | — | 頬部の下垂 |
| e. | 下顎縁枝 | — | 下口唇の変位 |

5. 肋軟骨について正しい記載はどれか

- a. 弾性軟骨である
- b. 移植後の彎曲はない
- c. 石灰化することはない
- d. 眼窩底骨折の再建に用いられる
- e. 小耳症の肋軟骨移植は通常就学前に行う

6. 上眼窩裂孔を通らないものはどれか

- a. 視神経
- b. 滑車神経
- c. 外転神経
- d. 動眼神経下枝
- e. 動眼神経上枝

7. 眼窩骨折において可及的早期手術が望ましいものはどれか

- a. 上壁の亀裂骨折
- b. 内壁の広範な陥没骨折
- c. 下直筋絞扼を伴う下壁骨折
- d. 複視を伴う下壁打ち抜き型骨折
- e. 眼窩下神経障害のある下壁打ち抜き型骨折

8. 頬骨（弓）骨折における 開口障害の原因はどれか

- a. 骨片による咬筋への機械的圧迫
- b. 骨片による側頭筋への機械的圧迫
- c. 骨片による内側翼突筋への機械的圧迫
- d. 骨片による外側翼突筋への機械的圧迫
- e. 咀嚼筋の支配神経（三叉神経）の損傷

9. 下顎骨関節突起高位（関節包内）骨折で行うべき治療法はどれか

- a. 鋼線牽引
- b. 顎間固定
- c. 観血的整復術
- d. 非観血的（徒手）整復術
- e. キルシュナー鋼線によるピンニング

10. 骨格性下顎前突症に対し下顎枝矢状分割法により咬合と顔貌を改善した。
最も考えられる咬合の変化はどれか。

a. Class I → Class II

b. Class II → Class I

c. Class II → Class III

d. Class III → Class I

e. Class III → Class II